

湘南海岸における海浜植物ハマボウフウと ビロードテンツキの個体数分布

藤吉正明

はじめに

湘南海岸は、全長約19km 続く全国でも有数の砂浜海岸であるが、沿岸域の開発や侵食によって砂浜は縮小し、そこに特有の海浜植物の生育地も分断されて部分的に残されているのみである。湘南海岸における海浜植物の生育地の保全に向けて、海浜植物の群落面積や海浜植物種数の調査が行われ、海浜植物群落が広い面積で存在する市町村や植物の分布が記録されている（藤吉ら 2006）。その調査では、11科17種の海浜植物が確認され、湘南海岸における稀少または近年減少している植物が数種確認されたが、それらの個体数などの定量的なデータは示されなかった。

そこで、本報ではそれら数種の定量的な把握を行い、海浜植物群落面積と出現種数の結果（藤吉ら 2006）と重ね合わせて各調査地を比較し、生育地の状況を詳しく示すことを試みた。調査対象種は、砂浜を象徴する種であり湘南海岸において保護の対象とされているハマボウフウと神奈川県レッドデータにおいて絶滅危惧ⅠB類として記載されたビロードテンツキの2種とした。

方 法

調査地

調査地は、藤吉ら（2006）においてまとめた海浜植物群落が残されていることが示された大磯町こゆるぎの浜地区（A：植物群落面積約1.8ha）、大磯町東町～平塚市唐ヶ原地区（B：植物群落面積約2.0ha）、平塚市虹ヶ浜地区（C：植物群落面積約2.4ha）、平塚市高浜台～平塚市千石河岸地区（D：植物群落面積約1.0ha）、及び茅ヶ崎市汐見台～藤沢市辻堂西海岸地区（E：植物群落面積約4.2ha）の5箇所とした。

受理日2008年11月10日

各調査地における対象種の個体数

調査は、対象種2種ともにそれらの存在が確認しやすく生育がピークを迎える開花・結実期（ハマボウフウ7月，ビロードテンツキ10月）に行った。ハマボウフウに関しては，全体の個体数が比較的多かったこと，未成熟な個体を正確に数えるのが困難であったことから，開花および結実が確認された個体のみを記録した。ビロードテンツキに関しては，全体の個体数が少なく生育地点が限られていたことから，未熟で開花していない個体についても記録を行った。ビロードテンツキは，攪乱等によって生育途中に分断され，個体が複数の株に分かれることがあるため，定量は個体数ではなく株数として記載した。両種の個体数把握のための調査は，各調査地内の植物群落を隈なく歩き，見つけた個体をカウンターで計数した。ビロードテンツキに関しては，生育している株の直径も測定し，各調査地における個体の大きさの分布を記録した。

結 果

ハマボウフウ

本調査において，湘南海岸における5箇所（A～E）の調査地で開花・結実が確認されたハマボウフウの総数は，15,515個体であった。ハマボウフウは，調査地全てで生育が確認されたが，各調査地における個体数は大きな違いが見られた（図1）。全体の68%にあたる10,487個体は，調査区Aの大磯町こゆるぎの浜地区に集中し，次いで27%にあたる4,242個体が調査区Dの平塚市高浜台～千石河岸地区に存在していた。湘南海岸地域のハマボウフウ開花個体の95%がこの2箇所の地区に分布していることが明らかになった。また各調査地は，群落の面積が1ha～4haと大きく異なるため，確認された個体数を面積あたりに換算すると，各調査地における1haあたりのハマボウフウの開花結実個体数は，A：5,917個体，B：247個体，C：56個体，D：4,216個体，E：37個体となり，総個体数と同様の傾向を示した。

調査区Eの茅ヶ崎市汐見台～藤沢市辻堂西海岸にかけての群落では，市民によって植栽・維持管理されている区画があり，確認された株はほとんどがその区画内で見られ，それ以外では非常に少なかった。

ビロードテンツキ

神奈川県において絶滅危惧ⅠB類に指定されているビロードテンツキであるが，湘南海岸では調査区Aの大磯町こゆるぎの浜地区と調査区Eの茅ヶ崎市汐見台～藤沢市辻堂西海岸地区の2箇所では確認されず，本調査で確認された総株数は803株であった。そのうちの86%に相当する690株は，調査区Aの大磯町こゆるぎの浜地区に存在していた（図2）。確認された株数を1haあたりに換算すると，A：389株，B, C, D：なし，E：27株であった。

株の大きさについては，調査区Aの大磯町こゆるぎの浜地区では，株の直径が100cmを超える大型の株から，近年定着したと考えられる10cm以下の小型のものまで，様々なサイズの株が存在していた（図3）。一方で調査区Eの茅ヶ崎市汐見台～藤沢市辻堂西海岸地区では，

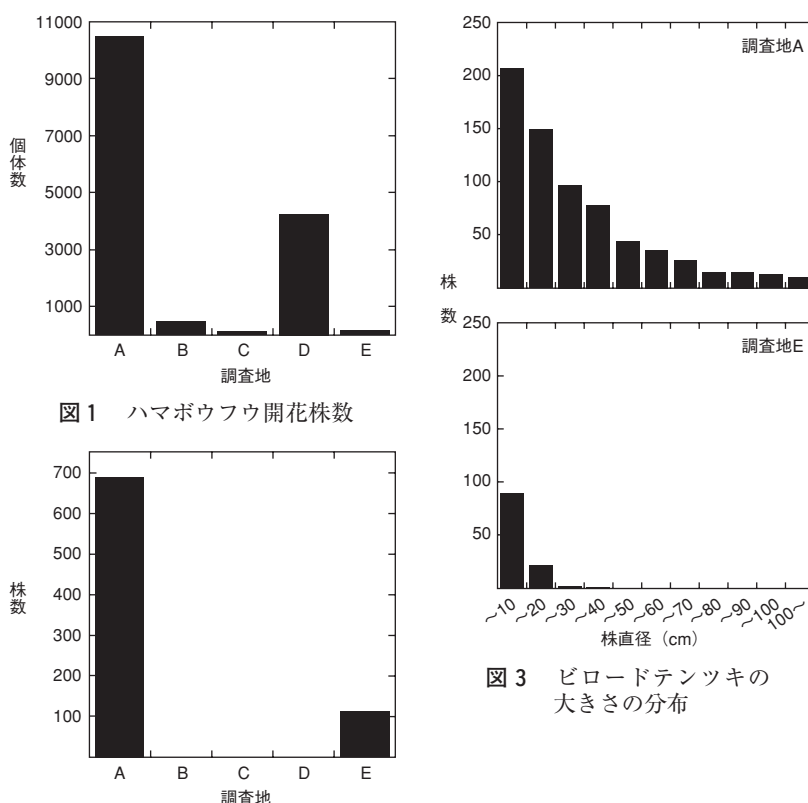


図1 ハマボウフウ開花株数

図2 ビロードテンツキ株数

図3 ビロードテンツキの大きさの分布

直径20cmを越えるものはわずかに3株が確認されただけであり、その他のものはごく最近になって定着したものであることが推察された。この調査地では、一部新たに植栽が試みられており、稀少種の定着への取り組みがなされている場所も見られた。

成 果

研究において得られた結果は、平塚市博物館研究報告「自然と文化」No.31, p. 75-78 (2008) において発表済みである。本研究結果の考察も含めて、そちらを参照していただきたい。

引用文献

藤吉敬子・高木友治・藤吉正明 (2006) 湘南海岸における海浜植物の分布と群落面積, 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, No.29, p. 1-14